

PDCAチェックシート

実施年度	令和 6 年度		
事務事業名	ファミリー・サポート・センター事業		
担当課名	保育教育課		
【Plan】計画	【Do】実施・実行	【Check】点検・評価	【Action】処置・改善
■目的 子育ての「援助を受けたい人」と「援助を行いたい人」の連絡・調整を行うことで、地域における子育てに関する相互援助活動を推進するとともに、子育ての多様なニーズへの対応を図る。 ■成果指標(アウトカム・KPI) ※ 【目標値】 ○おねがい会員数に占める新規登録者の加入率 5.0%以上 ○まかせて会員数（どっちも会員含む）に占める新規登録者の加入率 5.0%以上 【達成値(R6実績値)】 ○おねがい会員数に占める新規登録者の加入率 6.0% R6 116人（うち新規7人）、R5 115人 ○まかせて会員数（どっちも会員含む）に占める新規登録者の加入率 3.2% R6 62人（うち新規2人）、R5 67人 R6年度末（計 178人） おねがい会員 116人 まかせて会員 58人 どっちも会員 4人	■具体的取組 ○市社会福祉協議会に委託して、事業を実施した。 ・相互援助活動の調整 ・会員の確保、養成、質の向上 ・周知PR活動 等 ○特別な支援を要する児童がいる家庭に対しては、児童の対象年齢を18歳まで拡充した。 ■インプット(投入金額等) 事業費等 ○委託料 4,195千円 ■アウトプット(数量等) 実施回数等 ○活動回数 170回 (R5 354回、R4 333回、R3 249回、R2 300回、R1 446回) ○会員増への取組 ・まかせて会員養成講座 1回 受講者数 6人（うち新規2人） 受講時間 25時間＋保育実習 ・会員交流会 2回 ・スキルアップ研修会 3回 ・放課後児童クラブ利用者説明会での紹介 4回	■成果指標の具体的検証結果 (インプット・アウトプットに対するアウトカムの達成状況はどうか、また、達成できていない場合の原因は何なのか等の検証結果を具体的に記載) ファミリー・サポート・センター事業を利用するには、事前に「おねがい会員」に登録し、利用目的が合う「まかせて会員」とのマッチングが必要である。 アドバイザーが両者の間に入り、マッチング業務を行っているが、「おねがい会員」の確保が十分ではないと「まかせて会員」が担える活動内容・回数が限定的となり、一方で「まかせて会員」の確保が十分ではないと「おねがい会員」のニーズに十分対応できない。 「まかせて会員」は、子育て等の経験が豊富な中高年が、活動の中心的な役割を果たしているが、中高年の会員にとっても地域との絆や生きがいづくりにつながる活動である。本事業の周知や会員募集を積極的に行うことで、会員数の増加を促し、ファミリー・サポート・センターの事業を充実させる必要がある。 保護者からは「まかせて会員がどんな人かわからず不安である」、「自宅以外の場所で活動してほしい」、「土曜日に預かってほしいが利用しづらい」といった声があるため、事業を利用しやすくなるよう工夫が必要である。 両会員数は横ばいで維持しており、おねがい会員については、目標値を達成した。活動回数は、R5年度に定期的に利用していた会員の児童の年齢が上がり、利用対象外となったり、利用する必要がなくなったりしたことにより、減少した。 まかせて会員養成講座は1回開催した。講座は、子どもの病気や救急時の対応等、子どもと関わる上で重要な内容を行い、保育実習等を組み合わせ、効果的に実施することができ、会員の登録にも繋がった。	■検証結果を受けての具体的対応 マッチング時には利用者のニーズを聞き、支援が途切れないよう、場合によっては複数人で対応する等サービスの提供に努めているが、活動回数を増やしていくには「おねがい会員」を増やして活動内容を増やしつつ、より多くのニーズに対応するには、「まかせて会員」を増やすことも必要であり、活動回数の増加に向けて、さらなる新規加入者数の増加を目指す。 また、アドバイザー業務の充実を図り、ニーズの把握と掘り起こしに努める。 活動内容としては「送迎のみ」や「預かりと送迎の両方」が多く、送迎サポートが利用の大半を占めている。安心・安全な活動を実施するためにも、安全運転講習を継続し、まかせて会員のスキルアップに努める。 会員同士の親睦を深めるための交流会を実施しているが、依然としてまかせて会員がどんな人かわからないという声があるため、事業の定着に向けて、多くの方が参加できるよう、周知活動にアドバイザーやまかせて会員が参加する等、まかせて会員の顔が見える活動を展開する。具体的には、放課後児童クラブ利用者説明会等で市社会福祉協議会が事業の周知を行う等、利用場面もイメージしやすい周知活動に努めることで会員の獲得を図る。 活動場所が自宅では利用しづらいという声があるため、市内の公共施設等、会員同士が合意した場所であれば、両会員の自宅以外でも活動できることを周知していく。また、東かがわこどもひろばを相互援助活動場所として利用できる体制をとっており、あわせて周知していく。 近年家族のあり方が変容しており、核家族化が進んでいることから、本事業のニーズは高いと感じる。特に、就労等を理由とする土曜日の預かりへの要望については、経済的負担が課題としてあげられることから、ひとり親家庭等への助成の開始と東かがわアプリ等を活用した幅広い周知を行い、利用の促進を図る。 ■評価 現状維持

※KPI…重要業績評価指標。Key Performance Indicatorの略。アウトカムの達成度を具体的に示す指標(数値)をいう。